

③着色

画面の1部分だけ集中して描かずに全体を見て描きます。

広い面積の部分から色を乗せるとよいでしょう。

最初から濃く塗らずに水をたっぷりつけ薄く描いていきます。濃くするには重ねて塗ってあげばよく、その反対は難しいです。

後ちょっとというところで着色をやめるのがお勧めです。

④注意・留意点

(活動を行う上でのコツ 安全管理などについて)

詩やスケッチは上手にすることが目的ではない。その人なりの表現であり、この活動を通して自然や文化について深く、自己自身と対自し、多面的な見方ができたかどうかはまず大切なので作品のでき不出来にあまりこだわらないことを伝える。

⑤活動展開

発展 詩の朗読会をする。

出来上がった詩を新聞にする。

詩に挿絵をつける。

詩に曲をつける。

絵のミニ展覧会

地域にスケッチを展示する場所を作る

俳句吟行会の開催

※参考文献

天文年鑑、理科年表

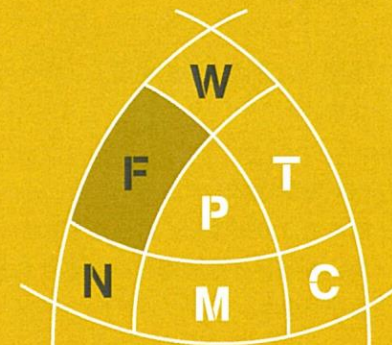
田中千尋 2001 「水筆ペンではがきに描く 超早分かり風景スケッチ」 日貿出版社

自然を感じたままに表す

F1

■ 関連学習プログラム感得 (F)

活動プログラム地域 (L) : 自然の中で感じるままを表現することによって基本学習プログラム自然誌 (N) と世界観 (C) につながる学習です



中込貴芳 (東京都立足立新田高校)

中込卓男 (町田市立大戸小学校)

index

1. 木や石、川の水など自然物に触る

2. 朝日、空、夕陽、星空を見る

3. 詩作・スケッチをしましょう

1. 木や石、川の水など自然物に触る

木や石、川の水などの自然物に触れ、冷たさ、暖かさなどの感触を言葉、俳句、水彩などで表現してみます。

(1) 学習目的・目標

人は五感の中で視覚優位な認識をしていて、触覚についてはあまり意識していません。意識して直接ものに触れることで、触覚から得られるさまざまな感覚を再認識し、触覚を通してものを感じ、認識することの大切さを学びましょう。

[キーワード] 物質、触覚、交感、世界

(2) 実施場所と方法

樹木のある場所 (森林、公園)、河原、その他どこでも実施できます。

活動時間 : 約 20 分～

対象・人数 : 小学校低学年～

装 備 : 目隠し、木片またはハンマー、ノート (記録用紙)、筆記用具

(3) 学習の内容

目を閉じたり、目隠しをしたりしていろいろな種類の樹木の幹や石に触れてみます。「ゴツゴツした」、「すべすべした」、「ザラザラした」などの質感や、「暖かい」、「冷たい」、「ひんやりした」などの温感の違いを感じてみましょう。樹木や大きな石については、手で触るだけでなく抱きついて体全体で対象を感じてみるようにしたいと思います。木の



枝や石ころを数種類集めてきて目隠しをして一つを触らせ、それと同じ種類当てるゲーム形式にしても楽しいでしょう。川の水についても、岸の側や川の中程、深さの違いや、流れの違いなどによってどのような感覚がするか目を閉じたり、目隠しをしたりして感じてみましょう。ノートにメモをとったり、記録用紙を用意したりして整理してみることも有効です。

注意・留意点：視覚を隠し、静かな環境で行うことが必要です。

(4) 活動展開
触るだけで出なく、木や石をたたいてその音色を聞いたり、臭いを嗅いでみるなどの活動をあわせて行くと活動の幅が広がります。



▲ 小菅の溪流で自分の気に入った石を探し、石の自慢大会をする。

■記録用紙例

種類	質感	温感	音	匂い	感想
まとめ					

2. 朝日、空、夕陽、星空を見る

(1) 学習目的・目標
日常生活ではあまり意識しない天空の現象や変化を観察し、空間の広さや豊かさ、時間の流れを感じ得します。
(キーワード) 世界、空間、時間、変化、光、色彩

(2) 実施場所
場 所：野原、高原、峠、
山の山頂などの見晴らしの良い場所
活動時間：10 分～半日
対象・人数：小学校低学年～
装 備：敷物、防寒具、寝袋、
(星座早見、双眼鏡、天文年鑑、理科年表)

(3) 学習の内容
晴れており、適度に雲がある空が変化に富んでいて良いです。雲の変化しながら流れていく様子を眺めます。静かに座ったり、寝ころんだりして最低10分くらいは眺めてみましょう。また、日毎の様子を観察し、その違いを観察しても良いし、季節における雲の形の変化を観察しても良いと思います。スケッチをして見るものよいでしょう。季節によって空気の透明感や空の高さの感覚の違いも認識できると良いです。複数で眺める場合は、雲の形が何に見えるか見立て遊びをしても楽しいと思います。

星空は新月前後に眺めるのが暗い星まで見えて良いです。また、夏の空は、明るい星の数も多く、天の川も明るく寒くないので観察に適しています。寝袋に入って寝ころんで眺めるのが一番です。冬も明るい星が多く、空気が澄んでいるのでしっかりした防寒対策さえすれば観察に適しています。静かにできるだけ長い時間眺めてみると良いでしょう。
1時間で星は約15度移動するのでと山の端や木などの目標物が、あれば日周運動による星の移動も感じることができます。また、夜通し星を眺めながら過ごせば、3シーズンの星空を観察することができ、空が動いているのではなく、大地が動いていることに意識を集中すれば、地球の自転も実感できるのです。また、長時間眺めていれば、飛行機明かりや人工衛星、流星も見ることができます。星座や惑星に関する基本的知識があればそれはそれでよいが、特に必要とするものでもありません。
幾人かで一緒に観察する時には、自分で自分の星座

を作り発表し合うのも楽しい遊びでしょう。また、宮沢賢治の「星めぐりのうた」などの星に関する歌をうたったり、星に関する童話や物語の朗読を聞いたりするのも楽しい体験で、試みてみたいものです。

月が出ている場合には、懐中電灯なしで林道などの散歩をしてみるのも楽しいでしょう。地面に影ができたりして、月の光の意外な明るさを実感できます。

朝日が出る頃と夕日が沈む頃は1日の内で空が、最も変化に富む時間帯であり、色彩的も豊かです。まず、日の出、日の入りの太陽の様子をよく観察しましょう。その際、太陽を直接見続けると目を痛める恐れがあるので時々視線をずらして目を休める必要があります。特に太陽の高度が高いときには、直接観るのは危険ですので、気をつけましょう。また、太陽が沈むにつれて周りの空の色の变化するようすも観察すると良いです。日の出前、日の入り後1時間ぐらいの薄明の時間帯は、空の色の变化が最も美しい時間帯であるので、日の出ならば星が輝いている暗いうちから明るくなるまで、日の入りならば暗くなって星が輝き始めるまで時間をとってゆっくり眺めるのがとてもすばらしいです。そのときの空気の透明度や雲の有無によって全く違う様子が観察できるので、いろいろな機会に観察してみることも必要でしょう。その時々感想や様子を記録しておくのも良いことです。

注意・留意点：夜は、思ったより気温が下がるので防寒対策はしっかりしましょう。

(4) 活動展開

基本的には、裸眼だけで十分活動を展開できますが、双眼鏡や天体望遠鏡での観察をあわせて行ってもよいと思います。



▲ 明け方の星空。雲の流れや、空の色の微妙な変化を観察しよう。

3. 詩作・スケッチをしましょう

(1) 学習目的・目標

優れた詞を作ることや上手なスケッチすることに越したことはないが、それ自体が目的ではありません。作ったり描いたりすることで対象とするものがよく見えてきます。また数人でこのプログラムを行う場合はそれぞれの感じ方の違いもわかるし、語り合うきっかけともなります。さらに深く対象を多角的に見られるようにもなります。

【キーワード】 俳句、自由詩、定型詩、スケッチ、画材、景観、色彩、形、象徴、デフォルメ、省略、感性

(2) 実施方法

実施場所：どこでも。

でも美しい景観の中ならもっといい

活動時間：いつでも。早朝の美しさもおすすめ。

たそがれ時も光がきれい。

夜は夜で独特の世界。

対象・人数：一人からできます。数人いれば互いに評価、刺激ができて活動は深まります。

用具：詩作…筆記用具（鉛筆など）、
記入用紙（ノート等）
スケッチ…鉛筆（2B以上）サインペン等。
水彩絵の具など。水筆ペン（非常に便利）、
スケッチブック。

(3) 詩作の学習内容

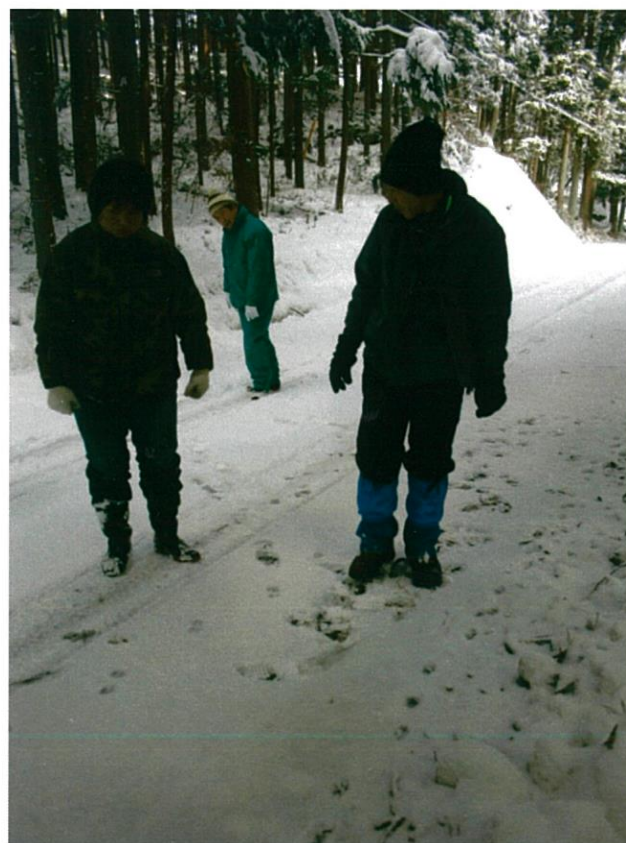
1、野外に行き詩を作ること伝えます。詩作を他の野外活動のまとめとして使ってもよい。むしろこの方が自然な流れになります。

2、詩の作り方

自分で見たもの、感じたことを1枚の絵のように自分の頭の中にイメージして、自分なりの言葉をちりばめていきます。説明は省き、短い言葉で。でも詩にはこれといってルールがあるわけではありません。自由に、感じたことを、見たことを自分の言葉でスケッチしていきます。

定型詩の俳句は長い歴史を持ち、5, 7, 5の文字の中に季節も盛り込みます（季語）。自然観をあらわすのに難しいですがそれだけ魅力的です。

指導者は参加者に詩を作るきっかけを提示します。基本は「よく見てみよう、見直してみよう」ということです。



▲雪が降りました。
このチャンスを生かしみんなで散策しました。いつもと違った世界。雪上についた動物の足跡。静けさ。大声を出して木についた雪を落とそうとする人。木を揺らす人。新雪に寝転がる人。斜面を滑ろうとする人…。あとは、様々に体験したことを自分なりに表現するだけ。

3、自然観察の後の表現、感想に詩作を使ってみましょう。体験が素敵ほど、いろいろな豊かな表現が出てきます。豊かなイメージを言葉にする。それが詩になります。

例えば、巨樹と対じして、木が何を語っているのか自分なりにイメージして言葉にしてみるのです。小さな花の前に30分ほど座りその間その花を訪れる昆虫やその花のきもちになって代弁してみます。目を閉じ聞こえてきた音を言葉にし、それを基に1つの森の音の詩を作ってみます。

(4) スケッチの学習内容

美しい景色を絵に描いてみたい、それを気軽に行うことができたら素敵です。描くことで対象物をよく見ることができます。写真を撮るのと同じようにどんどんスケッチしてみるのです。時間はかかりますがいろいろ見えてきます。

上手に描きたいと誰しも思いますが、そのことは多くは、自分が思い描いているとおりに描きたいということだと思います。そのためには多く描くことです。気軽に野外活動のひとつとして考えたらどうでしょう。

〈描き方の例〉

①画材

画材は何でもかまいません。指導者としてあらかじめ参加者に用意する場合は、水彩絵の具（固形絵の具が使いやすい、市販品のほか簡易パレットにあらかじめ水彩チューブから絵の具を出しておきそれを乾かして作ることもできる）と水筆ペンが便利です。

②下描き

はがきサイズの小さな紙（このくらいの大きさのほうが短時間に描け、初心者向き）を用意し鉛筆やサインペン（顔料系が絵の具を塗ったときににじまなくてよい）などで下描きをしてから色をつけていくのが普通です。もちろん下描きをしなくてもかまいません。絵の雰囲気がまた変わってきます。

風景の場合、まず構図を決め、地平線を基準線として描いていきます。

細部にこだわらずに全体のバランスを考えて描いていきます。



▲沢を歩き、音を集めて自分なりにこの沢で感じたことを短い言葉にしているところです。自分で沢に名前をつけ、詩が出来上がります。気楽に楽しみましょう。